

平成19年度 事務事業評価表		担当	市民病院 事務局			内線等	95 -1224	
事務事業名	院内テナント行政財産使用許可、業務指導管理事業			事業コード	1. 一般事務事業（ソフト事業）			
根拠法令等	地方公営企業法			A法令				

総合計画での位置付け

基本目標	3. 健康で安心して暮らせるまちづくり	施策名	医療
------	---------------------	-----	----

事務事業の内容

対象（受益者）	患者及び家族などのために
手 段	院内に売店、喫茶店及びレストランなどのテナントを入れて
想定する成果	日常生活に近い環境の中で医療サービスの提供を受けられるようになる。

事業の概要

項 目	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度計画
テナント数	7店舗	7店舗	7店舗
病院施設使用料	19,949千円	16,657千円	26,700千円
医業収益	6,412,633千円	6,010,958千円	7,082,438千円

成果指標

成果指標名	テナント1件に当たりに対する病院施設使用料	医業収益に対する病院施設使用料の割合
成果指標の説明	病院施設使用料 / テナント数	病院施設使用料 / 医業収益 × 100

事業の進捗状況 ( 病院事業 会計 ) (単位：千円)

		平成18年度決算（実績）				平成19年度決算（実績）				平成20年度予算（計画）			
成果指標		2,850千円				2,380千円				3,814千円			
成果指標		0.3%				0.3%				0.4%			
事業費	事業費												
	人件費	2,335				2,343				2,354			
	(人数)	正規	0.3	非常勤		正規	0.3	非常勤		正規	0.3	非常勤	
	合計	2,335				2,343				2,354			
財源内訳	国												
	県												
	市債												
	その他												
	一般財源	2,335				2,343				2,354			

事務事業内容の評価

項目	課内評価		部長評価		評価の説明(問題点)
	19評価	16評価	19評価	16評価	
達成度	2	3	2	2	患者等の利便性を図っている。
経済効率性	2	3	2	2	医業外収益として計上している。患者数の減少に伴い収益が減少している。
事務効率性	3	3	2	3	投入された人員に見合った成果をあげている。
必要性	3	3	3	3	収益の確保及び患者等の利便性の確保の点で必要。
小計	10	12	9	10	
施策への貢献度	1	-	2	-	医療との直接の貢献度は低い。患者及びその家族等に対する利便を図ることでの貢献がある。
合計	11	12	11	10	

達成度等各項目は、0～3点までの4段階評価

総合評価	B	A	B	B	(テナント内訳) レストラン(メキ)、売店(ダックス)、花屋(花木土)、喫茶店(スル)、理容店(渡辺)、自動販売機(社会福祉協議会)、病室床頭台等(トヨペンディング)
------	---	---	---	---	--

総合評価は、A～Dまでの4段階評価

前回(H16評価時)「今後改善すべき点」として記載した内容及びその実施状況

前回(H16評価時に)記載した「今後改善すべき点」
テナントは開院以来入居しており、既存テナントの見直しの検討や職種の検討も必要。
上記改善点の実施状況
既存テナントの見直しについては、未実施の状況である。

今後さらに改善すべき点

見直しについては、患者数が減少している現状では、実施しづらい点もあるが、委託業務の現状分析及び見直しと並行して検討する必要がある。
---

平成21年度予算に反映する項目

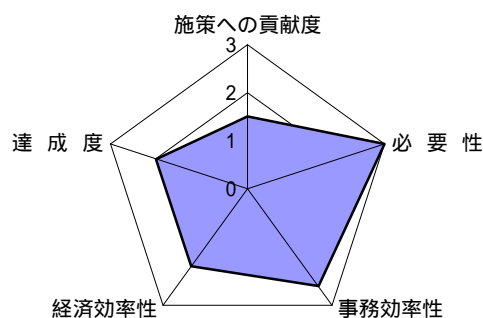
--

今後の方向性

検討中
-----

【各部長は、部長評価欄の採点部分だけを記載】

内部管理事務事業、義務的事業は必要性を、また施策名がその他のものは施策への貢献度を評価していません。



課内評価と部長評価の平均点